

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「高機能微生物群集と根圏浄化能強化水生植物を用いた水環境汚染の修復」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人 山梨大学 大学院医学工学総合教育部

准教授 森 一博

2-2. 中国側研究代表者:北京大学 工学部 教授 Wu Xiaolei

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

水生植物根圏への分解菌導入によるバイオレメディエーション技術の可能性が示された。汚染が進む水資源・水環境問題というアジア地域共通の課題を解決するため、低コスト環境低負荷型水環境浄化と有用資源生産に関する実用的な研究成果が得られた点は評価できる。ただし、申請時点よりも微生物研究に重点がおかれた計画となったため、申請書の研究目的に示されている、中国の水不足への適用という点では具体性に欠けるのが残念である。

(2)交流成果の評価について

比較的長期間の若手研究者の派遣が実施され、効果的な交流がなされたといえる。ただし、中国側の研究者の日本への訪問がもう少し多かった方が良いのではないと思われる。日本からの出張の内訳としてはワークショップ参加を兼ねたものが多く、延べ出張日数の割に実際の研究打ち合わせがやや少ないようであるのは残念である。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

共著論文があり論文数も多い点、学会発表が34件(うち1件は両国研究者連名による)と多い点は評価できる。また、研究成果が日本水処理生物学会論文賞、環境技術学会40周年記念論文賞などの5件の論文賞等を受賞したことは評価できる。水生植物根圏へ導入した分解菌について、フィールドでの残存性を確認できれば、実用化への展開が期待できる。産学連携による実用化に向けたさらなる研究が期待される。また、特許の国際出願申請も期待される。